

株式会社カンセキ 中間決算説明会資料

2006年 1月13日



株式会社カンセキ

平成17年8月期の総括

当社を取り巻く経営環境は、大型店舗や郊外型大型複合施設の出店など業種業態を問わず進出が活発化し、更に競争が激化しております。

このような環境の中、ホームセンター部門では館林店の改装を行い、売場レイアウトの大幅な変更を実施いたしました。

新規店舗として、WILD-1を1店舗、オフハウスを2店舗、業務スーパーを4店舗、出店いたしました。

この結果、売上高は新規店舗により前年比100.8%と増収となりましたが、既存店前年比は1.6%であり、天候の異変、競争激化、郊外型大型商業施設の活発化による影響を受けました。

収益面においては、新規出店による初期費用の発生、法改正による法人事業税の増加、短期借入金を長期借入金に移行したことによる支払利息の増加、ポイントカードの値引き増により前年を大きく下回りました。

今期の主要トピックス

1. 新規オープン店舗

(1) WILD - 1人間店 (平成17年3月19日オープン)

(2) 業務スーパー雀宮店 (平成17年3月17日オープン)

(3) 業務スーパー戸祭店 (平成17年4月7日オープン)

(4) 業務スーパー八幡店 (平成17年4月21日オープン)

(5) 業務スーパー小山店 (平成17年5月27日オープン)

(6) オフハウス新白河店 (平成17年3月18日オープン)

(7) オフハウス下館店 (平成17年5月20日オープン)

2. リニューアル・オープン店舗

ホームセンター館林店

今期の主要トピックス

補足資料



平成17年8月期貸借対照表 (要約)

(単位:百万円)

資産の部				負債/資本の部			
	今期	前期	前期比		今期	前期	前期比
流動資産	7,537	7,706	97.8%	流動負債	11,883	17,367	68.4%
棚卸資産	5,768	5,283	109.2%	短期借入金	7,115	12,482	57.0%
その他の流動資産	1,768	2,423	73.0%	一年以内償還予定の社債	81	56	144.6%
固定資産	23,395	23,372	100.1%	その他の流動負債	4,686	4,829	97.0%
有形固定資産	17,580	17,336	101.4%	固定負債	14,617	9,182	159.2%
無形固定資産	723	719	100.6%	社債	502	308	163.0%
投資その他の資産	5,092	5,316	95.8%	長期借入金	12,263	7,063	173.6%
繰延資産	18	12	146.5%	その他の固定負債	1,851	1,810	102.3%
				負債合計	26,500	26,549	99.8%
				資本合計	4,450	4,541	98.0%
資産合計	30,950	31,091	99.5%	負債及び資本合計	30,950	31,091	99.5%

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

平成17年8月期損益計算書(要約)

(単位:百万円)

	今中間期	前中間期	前期比	備考
売上高	16,600	16,473	100.8%	WILD-1を1店舗、オフハウス2店舗、業務スーパー4店舗の出店による増加と、飲食事業(前年)営業譲渡による減少
売上総利益	4,364	4,378	99.7%	
販管費	4,669	4,564	102.3%	新規出店7店舗のイニシャルコスト増と、法改正による法人事業税の増加
営業利益	396	502	78.9%	
経常利益	107	240	44.8%	支払利息が前期に比べ、34百万円増加
当期純利益	67	158	42.6%	

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フローの状況

(単位 :百万円)

	今期	前期	前期差
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,179	904	275
投資活動によるキャッシュ・フロー	222	219	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,202	683	519
現金及び現金同等物の増減額	245	1	246
現金及び現金同等物 期首残高	1,076	1,518	441
現金及び現金同等物 期末残高	831	1,519	687

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

営業活動によるキャッシュ・フローの内訳

・主に税引前中間純利益99百万円、減価償却費2億55百万円、新店増加に伴う仕入債務の増加額6億52百万円、たな卸資産の減少額60百万円により資金が得られたことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローの内訳

・主に新規出店(7店舗)、店舗リニューアル(1店舗)などの有形固定資産取得による支出3億21百万円及び差入保証金・敷金の支出64百万円ではありますが、差入保証金・敷金の回収による収入2億8百万円との相殺後の純支出であります。

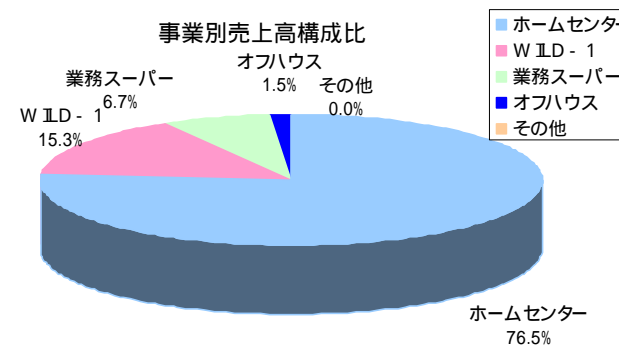
財務活動によるキャッシュ・フローの内訳

・主に借入金の返済によるものです。

事業別売上高

事業	売上高 (百万円)	前期比	構成比	
ホームセンター	D I Y用品	5,386	94.7%	32.5%
	家庭用品	3,359	90.1%	20.2%
	カー・レジャー用品	3,955	110.6%	23.8%
	計	12,701	97.7%	76.5%
WILD-1	2,540	103.6%	15.3%	
業務スーパー	1,109	165.0%	6.7%	
オフハウス	248	180.1%	1.5%	
その他	-	-	-	
全社計	16,600	100.8%	100.0%	

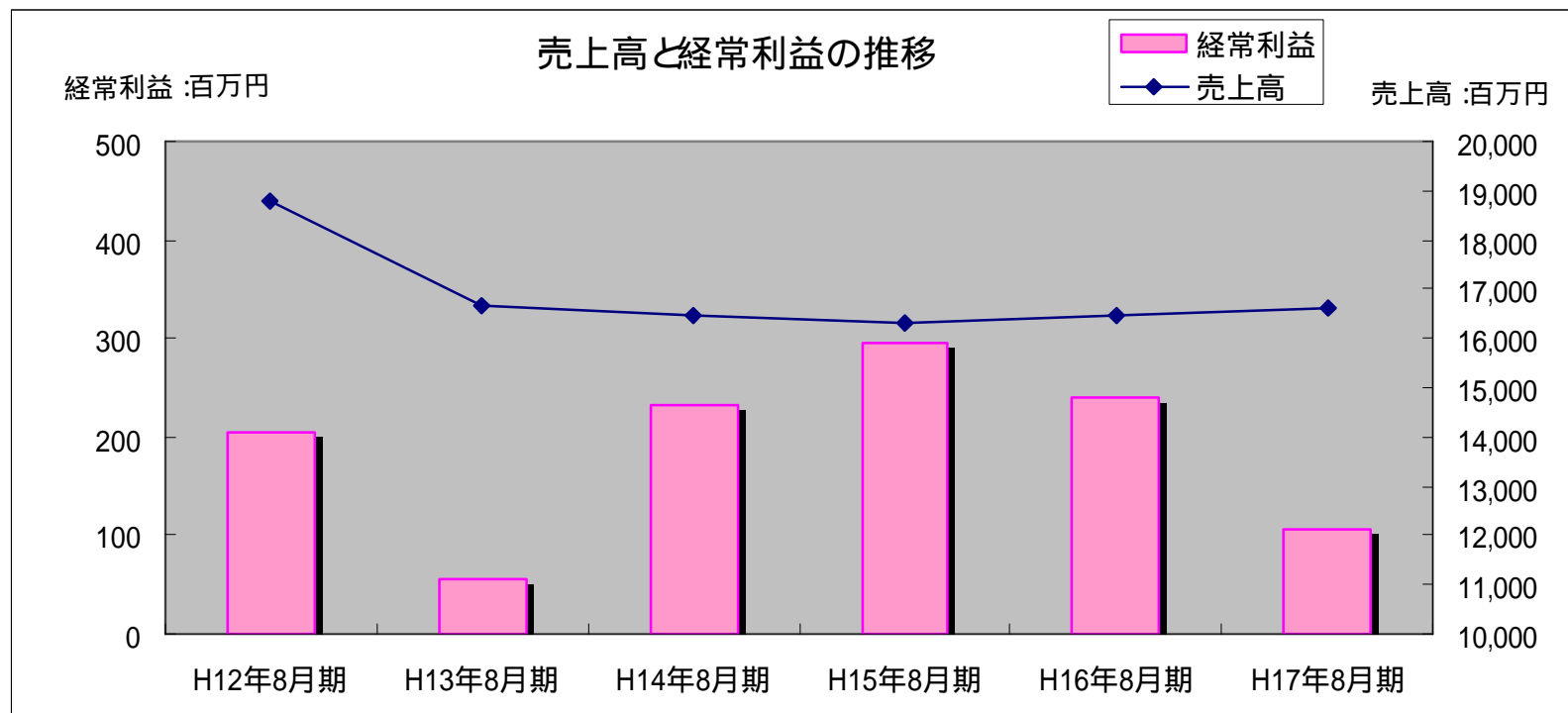
- 事業別の主な取扱商品は、次のとおりであります。
 - ・D I Y用品 素材、金物、エクステリア、植物、園芸用品、住設機器等
 - ・家庭用品 日用品、家庭用品、インテリア、菓子食品等
 - ・カー・レジャー用品 カー用品、ペット用品、文具、スポーツレジャー用品、自転車等
 - ・WILD-1 アウトドア用品
 - ・業務スーパー 業務用食材等
 - ・オフハウス リサイクル商品
 - ・その他 飲食店(前年まで)
- WILD-1事業、業務スーパー事業及びオフハウス事業の増加は、店舗増加によるものであります。
また、その他の事業に含まれておりました飲食店は平成16年9月1日付で当社の子会社へ営業譲渡しております。



売上高 経常利益の推移

(単位 :百万円)

	H12年8月期	H13年8月期	H14年8月期	H15年8月期	H16年8月期	H17年8月期
売上高	18,789	16,663	16,458	16,308	16,473	16,600
経常利益	205	55	232	296	240	107



平成18年2月期の見通し

当社を取り巻く経営環境は、個人消費については回復基調にあるものの、HC業界内での競合激化が進んでおり、大型商業施設の開発競争も各地で活発化するなど、引き続き厳しい環境が継続しております。

こうした中、当社は業容の拡大策として平成17年8月期までにWILD - 1入間店、業務スーパー4店舗、オフハウス2店舗の新規出店を実施いたしました。また、平成18年2月期までにオフハウス1店舗の新規出店を計画するとともに、収益力の向上を図るためにPB商品の拡大や在庫回転率の向上に努め、お客様から支持される店舗作りに邁進してまいります。

平成18年2月期の通期見通しといたしましては、売上高317億円、経常利益1億2千万円、当期純利益4千万円を見込んでおります。

	平成17年2月期	平成18年2月期予想	前期比
売上高	30,840	31,700	102.8%
経常利益	106	120	112.3%
当期純利益	23	40	169.3%

(単位:百万円)

ご注意

本資料は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって異なっている場合があります。
また、本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際には、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ
株式会社カンセキ 総務部
TEL 028-658-8123
FAX 028-659-3621